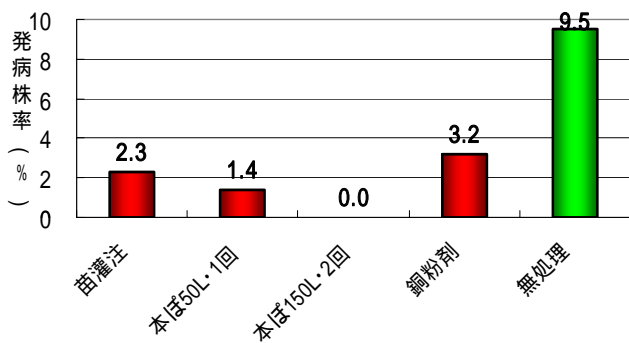


# 亜リン酸肥料で黒大豆土壌病害に対する抵抗力向上

【背景・目的・成果】 兵庫県の黒ダイズにおいて茎疫病等の土壌伝染性立枯性病害が増加しており、また、短期間の田畑輪換により地力窒素が消耗し、減収傾向にあります。そこでダイズ生育初期に亜リン酸液肥を株元散布すると病害が抑制されました。また、莢数、収量も増加する傾向が認められました。

亜リン酸とは：

- 1 化学式  $H_3PO_3$ 、リン酸 ( $H_3PO_4$ ) より吸収極めて良い
- 2 肥料登録有り(着果・結実促進、果実品質向上、根群伸長効果)
- 3 カンキツで病原菌感染時に抗菌物質生成を促進し、病斑を抑制



亜リン酸処理  
(500倍、本ば150L/10a2回)



無処理

図1 亜リン酸の散布方法、量が立枯性病害の発生に及ぼす影響

亜リン酸液肥500倍希釈。苗灌注は定植当日6月22日、1L/箱(128穴)処理、本ば1回処理は6月28日、2回目は7月12日、株元散布、散布量は10a当たり。銅剤は6月28日、3kg/10a株元散布。

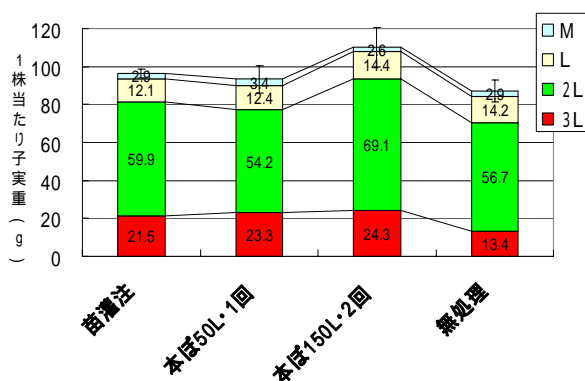


図2 粒径別収量 バーは標準誤差

## 亜リン酸液肥施用方法

- 1 6月下旬、7月中旬の2回、500倍を150L/10a株元散布しますと、高い耐病性向上効果、さらに増収効果もあります。
- 2 1回散布では、6月下旬～7月上旬に行います。散布量は50L/10aでも有効ですが、150L/10aと多い程有効です。
- 3 セル苗移植の場合、移植直前、苗に500倍、1L/箱で、灌注する方法も省力的です。
- 4 苗に灌注後、7月中旬に本ばで株元散布を併用するのも有効です。



黒大豆の安定生産と産地維持を目指します

【技術の活用】 亜リン酸液肥は病害抑制効果も期待されますが、亜リン酸液肥はあくまでも肥料であり、増収効果を目的に施用し、安定生産に結び付けるのが望ましいです。